

平成25年度アジア情報関係機関懇談会

**「調査研究部門に隣接する図書館は、
その価値をいかに高められるか」**

平成26年3月19日
国立国会図書館関西館

アジア情報関係機関懇談会とは

- ・ 国のアジア情報関係機関の交流を図り、国全体としてのアジア情報資源の充実とアジア情報の流通促進に資する。
- ・ 平成13年度から、毎年1回開催。10機関程度が参加。
- ・ 平成24年度から、テーマに即した報告・意見交換を行う方式に変更。

平成25年度懇談会

(1) テーマ「調査研究部門に隣接する図書館は、その価値をいかに高められるか」

(2) ねらい

- ・ 調査部門支援の強化等に着手したアジア情報室の取組を紹介。
- ・ 関係機関と経験・教訓を共有し、互いの業務改善に役立てる。

平成25年度アジア情報関係機関懇談会

「アジア情報室の情報発信

・ 対外連携強化の取組」

国立国会図書館関西館 塚田 洋

本日の構成

- 1 アジア情報室の概要**
- 2 開室10年の実績**
- 3 情報発信と対外連携の強化**
- 4 今後の課題**

1 アジア情報室の概要

(1) 沿革

- ・ 当館は開館（昭和23年）以来、一貫してアジア専門の資料室を設置。
- ・ 関西館開館時（平成14年）に改組・移転し、「アジア情報室」となる。

昭和23（1948）年	国立国会図書館開館。「中国資料室」を開室。
昭和30（1955）年	「アジア資料閲覧室」へ改組・改称。
昭和34（1959）年	「アジア資料参考室」へ改組・改称。
昭和36（1961）年	「アジア・アフリカ資料室」へ改組・改称。
昭和61（1986）年	「 アジア資料室 」へ改組・改称。
平成 3（1991）年	関西館設立に関する第二次基本構想
平成14年（2002）年	関西館開館を機に東京本館から移転。「 アジア情報室 」開室。
平成24年（2012）年	開室10年を迎える。

1 アジア情報室の概要

(2) 資料・サービス概要

①所蔵資料

- ・ 図書36万冊、雑誌・新聞8,600タイトルは国内有数の規模。
- ・ 電子ジャーナル（CAJ、KISS）で、11,500タイトルの学術雑誌も利用可。

②閲覧室 開架資料3万冊、閲覧席84席。

③サービス

- ・ 来館のほか、遠隔サービスとして、図書館間貸出、郵送複写、レファレンス（文書、電話）を実施。



1 アジア情報室の概要

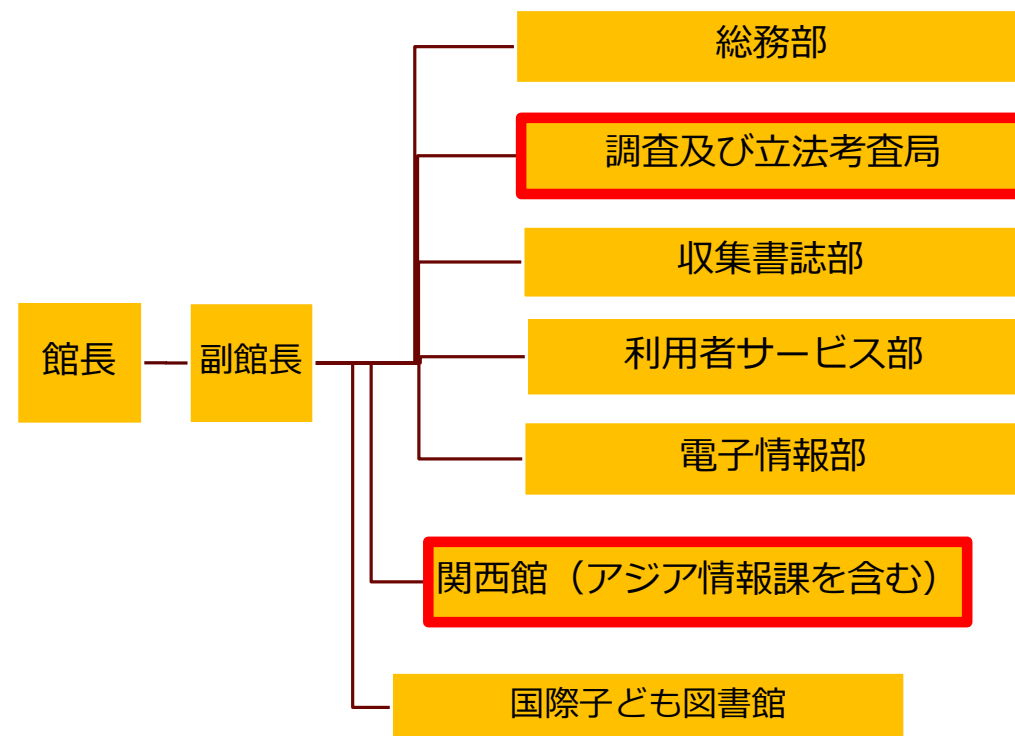
(3) アジア情報課の位置付け

- ・アジア情報課の属する関西館は、東京本館の5部局とともに「中央の図書館」を構成。

(4) 調査部門との関係

- ・当館第一の任務は国会サービス。
- ・立法調査サービスは、調査立法考査局が担当。アジア情報課を含む関西館も資料提供等の図書館サービスでこれを支援。

国立国会図書館の組織



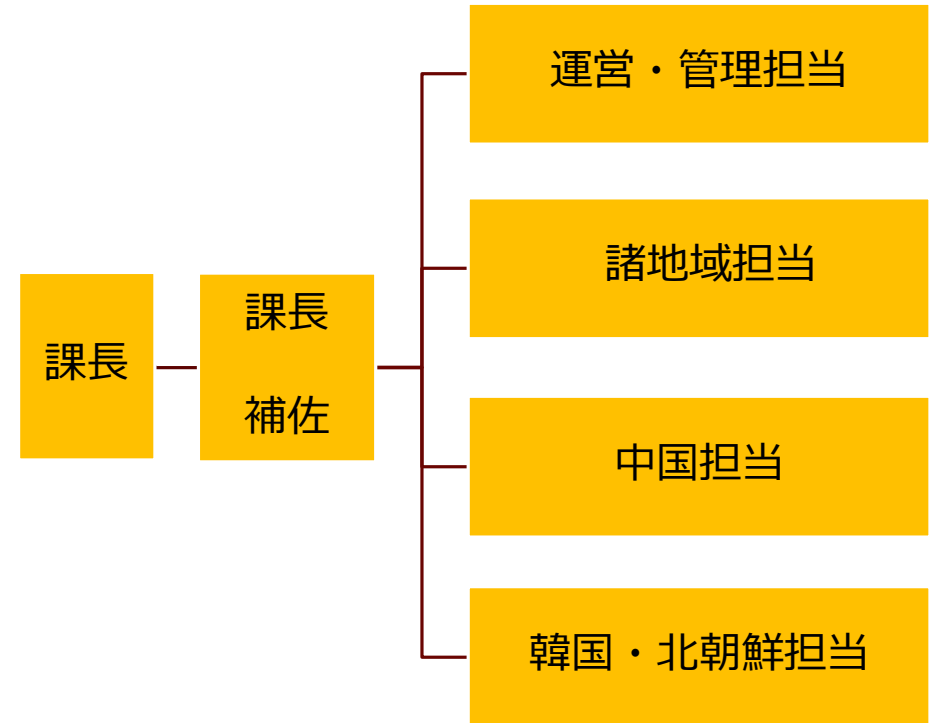
※他に行政・司法各部門に支部図書館がある

1 アジア情報室の概要

(5) 体制・人員

- ・ 地域担当制（諸地域、中国、韓国・北朝鮮）。
- ・ 正職員は全館一括採用であり、東京・関西、司書・調査・管理の各部門を数年単位で異動。
- ・ 中国語、韓国語等の読解力のある職員のほか、調査部門を経験した職員も在籍。

アジア情報課の体制



1 アジア情報室の概要

(6) アジア情報室の機能－旧アジア資料室との比較－

① 図書館サービス（共通点）

- ・対象は東アジアから中東・北アフリカまでの約60の国・地域。
- ・現地語資料の選書、整理、保管、提供を一貫して扱う。
- ・旧アジア資料室の蔵書を引き継ぐ。

② 情報発信と対外連携（相違点）

- ・関西館の設立構想（関西館設立に関する第二次基本構想）に掲げる3つの役割（「文献情報の発信」「世界に広がるサービス」「新しい図書館協力」）を実現するため、新たに**情報発信機能**と**対外連携機能**を担う。

本日の構成

- 1 アジア情報室の概要
- 2 開室10年の実績
- 3 情報発信と対外連携の強化
- 4 今後の課題

2 開室10年の実績

(1) 図書館サービス

① 蔵書の充実

- ・ 図書は6.7万から36万冊、雑誌・新聞は6,600から8,600タイトルへ増加。
- ・ 中国語資料の比率が高い（図書は約75%）が、収集困難地域（中東、中央アジア等）資料の充実のため、職員の現地派遣や蔵書評価も実施。
- ・ 日本関係、遠隔サービスに適した学術雑誌（電子ジャーナル等）に配慮。

② 資料提供サービスの改善

- ・ 利便性向上のため、随時実施。平成25年度は、電子ジャーナルの記事の複写申込みをNDL-OPACから直接行えるようシステムを整備。

2 開室10年の実績

(2) ホームページによる情報発信

① 書誌情報

アジア言語OPACの公開（平成14年）。NDL-OPACへの統合（平成24年）。

② レファレンス関連情報

「アジア諸国の情報をさがす」

- ・ 『アジア情報室通報』（季刊）
- ・ アジア情報の調べ案内
- ・ Asia-Links（アジア関係リンク集）
- ・ アジア情報関係機関ダイレクトリー

アジア諸国の情報をさがす



アジア情報室 の利用案内	所蔵資料 の概要	アジア情報の 調べ案内	AsiaLinks	アジア情報機関 ダイレクトリー	刊行物	アジア情報室 の活動
-----------------	-------------	----------------	-----------	--------------------	-----	---------------

このページでは、アジア諸国に関する情報を調べるツール、および国立国会図書館の主にアジア情報室で所蔵するアジア言語資料の概要をご紹介します。

2 開室10年の実績

(3) 対外連携活動

① 国内機関との連携

- ・ アジア情報関係機関懇談会
- ・ アジア情報研修

国内のアジア情報サービスの向上のため、主に**アジア言語の読解力のある司書を対象**に年1回開催。

- ・ 外部プロジェクトへの参加

京大東南アジア研究所共同利用・共同研究プロジェクト、人間文化研究機構プログラム
現代インド地域研究 (INDAS)、アラビア文字資料司書連絡会

アジア情報研修



2 開室10年の実績

(3) 対外連携活動

② 海外機関との連携

- ・ **中国国家図書館、韓国国立中央図書館との業務交流**

隔年で代表団を派遣。サービス改善に資する意見交換を行い、資料収集協力等で成果。

当課職員も報告者、通訳として参加。

- ・ **米国議会図書館東南アジア共同収集プログラム（CAPSEA）への参加**

東南アジア地域の資料収集に活用。インドネシア、マレーシア、ベトナム等の資料が中心。

日中業務交流



本日の構成

- 1 アジア情報室の概要
- 2 開室10年の実績
- 3 情報発信と対外連携の強化
- 4 今後の課題

3 情報発信と対外連携の強化

(1) 10年間の総括

- ・蔵書の充実、レファレンス・ツールの整備等、「情報の蓄積」に力点。
- ・来館利用は移転後、激減。遠隔サービスも減少分を吸収できず。
- ・対外連携活動は定着しているが、当室の実務改善に資するものが中心。

(2) 活性化のための新方針

図書館サービスの充実に努めるとともに、情報発信と対外連携は、

①サービスの高度化、②アジア情報の普及、③連携活動の強化

の視点で活性化を図る。平成25年度は新たに3つの取組を行った。

3 情報発信と対外連携の強化

① 国会サービスの拡充 – 「サービスの高度化」の視点 –

a) 立法調査資料への記事執筆

所蔵資料、言語読解力、主題の知識等を活かし、国政審議に役立つ情報を提供。

今年度の実績

- ・ 戦後の米国・アジア関係の関連年表
(総合調査『日米関係をめぐる動向と展望』平成25年8月)
- ・ 「韓国の都市再生活活性化及び支援に関する特別法」
(『外国の立法』平成26年2月号)
- ・ 「尖閣諸島、竹島等に関する最近の中国語、朝鮮語資料」
(『レファレンス』平成26年3月号)



3 情報発信と対外連携の強化

① 国会サービスの拡充 – 「サービスの高度化」の視点 –

b) 調査員向け情報配信サービス

新着中国語・韓国語資料から、調査に役立つ研究書・報告書数点を選んで内容解説。

月1回、調査員向けのメール配信を試行。内容の照会にも対応。

c) その他

個々の調査依頼、資料購入リクエスト、資料取寄せも、範囲を拡大し迅速対応。

調査部門のニーズ把握は、a)～c)の取組や定期協議（年2回程度）を通じて行う。活発な取組がニーズ把握につながる。

3 情報発信と対外連携の強化

② 中国の資料デジタル化プロジェクトに関する情報提供

－「アジア情報の普及」「連携活動の強化」の視点－

- ・ 参加機関となれば約270万冊のデジタル化資料が利用可能となる、中国の資料デジタル化プロジェクトCADAL（China Academic Digital Associative Library）に注目。
- ・ 国内に参加機関があれば、研究者のメリットが大きいことから、関係機関と連携し、参加に必要な情報を収集。当館も参加を検討。



3 情報発信と対外連携の強化

② 中国の資料デジタル化プロジェクトに関する情報提供

日中業務交流

- 日中業務交流の際、CADALプロジェクトセンター（浙江大学）を訪問。
- （国内に参加機関のない）日本が、CADALアクセス数で米国に次ぐ2位と知る。

講演会開催

- CADAL関係者を招へいし、講演会を開催。
- 参加館のメリット、参加条件等の情報も聴取。『アジア情報室通報』等で紹介。

参加検討

- 当館も次年度にCADAL参加を検討予定。
- 参加に関心を持つ国内機関、CADAL参加の海外図書館との情報交換に着手。

3 情報発信と対外連携の強化

③ アジア情報研修の初心者向け科目新設

－「アジア情報の普及」「連携活動の強化」の視点－

- ・「日本語・英語で調べる中国情報」「韓国情報」「東南アジア情報」を開講。
- ・日英のみでも一定の調査が可能であることを示し、専門司書のいない図書館に、アジア情報活用のきっかけを提供。
- ・今後は東京、地方、HP開催の各種研修へも展開予定。

本日の構成

- 1 アジア情報室の概要
- 2 開室10年の実績
- 3 情報発信と対外連携の強化
- 4 今後の課題

4 今後の課題

(1) 人材の確保、育成

① 図書館サービス

② 情報発信・対外連携

(2) 業務の効率化・優先順位付け

ご清聴ありがとうございました。

「アジア諸国の情報をさがす」

<https://rnavi.ndl.go.jp/asia/index.php>